

"My Leadership" Journeys

「私のリーダーシップ」ジャーニー



"My Leadership" Journeys

特集

「つながる！ 準正課活動と授業」

飛び込んで、動いて、つないで…
気づく、つくる。
自分色のリーダーシップ。

半径5mで発揮できる。

役職・権限によらない。

「指示を出す」に限らない。

「メンバーを引っ張る」や

他者や社会と出逢うことは、自分と出逢うことでもあります。
出逢う中で、自分の強み・弱みとともに、
大切にしたいことを見つめ直し、把握していく。
すると、他者や社会とどうかかわりたいかが見えてきます。

それが自分色の リーダーシップ発揮への第一歩

この冊子に登場する学生たちは

- ・目的・目標を共有し
 - ・そのために行動し
 - ・サポートしサポートされる を通して、
- 自分のまわりの小さな社会に変化をもたらしてきました。

相手の話をしっかり聞いて理解するのもリーダーシップ。
笑顔でメンバーをなごませるのもリーダーシップ。
周囲を頼ることも、リーダーシップ。

あなたにも、自分色の リーダーシップがある。

リーダーに、向き不向きは、ありません。
リーダーシップ行動は、学習可能なのです。

リーダーシップの最小3要素

①目的・目標共有

「何のために」を明確化、共有する
(目的・目標を立てっぱなしにせず、ケアしよう)

②率先垂範

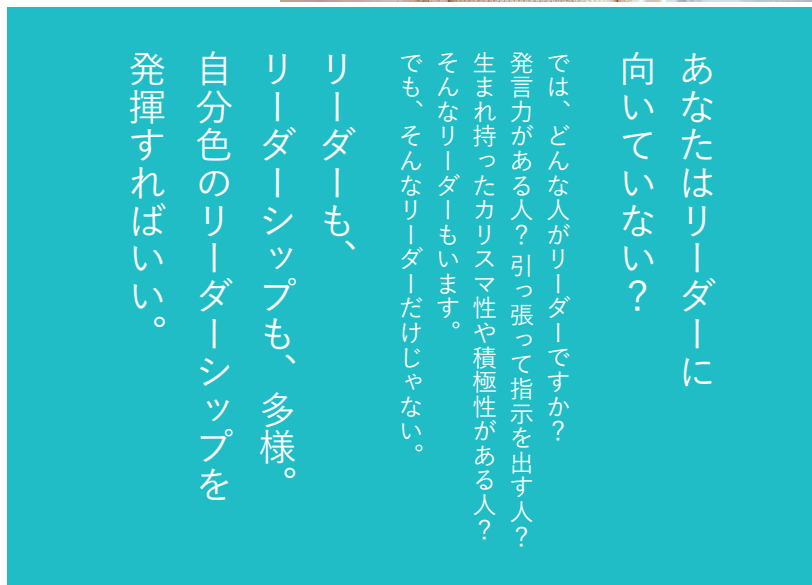
目標のために自分がまず行動する
(自分一人で行うのではなく、③の相互支援につなげよう)

③相互支援

他者が動けるようにサポートし、自分もサポートされる
(他者を理解することで他者が力を発揮できるように、
そして自分も「助けて」と言えるようにしよう)

日向野幹也「第9章：新しいリーダーシップ教育とディープ・アクティブラーニング」松下佳代編著
「ディープ・アクティブラーニング：大学教育を深化させるために」勤草書房、2015年を参照し作成

活動して、気づけた。
私のやにある
自分色のリーダーシップ!



“My Leadership” Journeys



LEADERSHIP

is the ART
of mobilizing others
to struggle for
shared aspirations.

Kouzes & Posner

ここから先のページに続くのは、
5人の学生の“My Leadership” Journeys—
福岡女子大学が特色とする
体験的学習（正課・準正課）を通じた
「自分色のリーダーシップ」の旅です。
それは、気づきや行動をつながげながら
自分色を表現、発揮していく道のり。

あなたの中にある
「自分色のリーダーシップ」を考える
きっかけとなりますように。

しませんか？
100年前。「女性にも高等教育を！」と、自分自身の問題意識を梃子に、描き出し、立ち上がった女性たちがいました。彼女たちは、多くの他者に働きかけ、支援されながら、福岡女子大学の前身となる全国初の公立女子専門学校設立にこぎつけます。そんなルーツをもつ福岡女子大学だからこそ、あなたが、「こんなふうにもできる・こんなこともできる」を描き、他者とかかわり、協力し合いながら、自分色のリーダーシップを発揮していくことを、全力で応援しています。

今、あなたが肌で感じるように、社会は急速に変化し、そこには課題が山積みとなっています。身近なところではコロナ禍。毎年のように起こる自然災害とその向こうにある気候変動。広がるばかりの格差や、根深い女性蔑視もあります。様々な価値観が存在し、誰もが「正解」だと納得できる答えはありません。そんな中、無力感に襲われることもあるでしょう。でも、無力なままを望んではないはず。身近にある小さな問題意識をきっかけに他者や社会と関わり、働きかけ、変化につなげる。その方がワクワク

あなたがもし、「リーダーって特別な人になるもの」「私はリーダータイプじゃない」と考えているなら、そこから一度、自由になってみませんか？
リーダーシップ研究という学問分野があります。その知見によれば、立場や権限をよりどころに周りに指示を出したり、係のように決められたことをこなす、が「リーダー」なのではありません。「よい変化をもたらすために、他者と積極的にかかわり、協力し合う人」という定義も用いられます。「変化」はどんなに小さくてもいいのです。「こんなふうにもできる」を描き出し、他者と話し合いながらそして助け合いながら前進していく。そんな行動がとれる人がリーダー、ということです。

福岡女子大学の基本理念は
「次代の女性リーダーを育成」

やっぴいいの？から、やっぴみよう！

そんなリーダーシップ発揮を拡げたい

なかなか

上手いかない

1年生の時に履修していた体験学習プログラムで、仲間と報告会をするに。けれど、発表用のスライドがなかなか進まず、報告会をする目的を見出せないまま、時間ばかりが過ぎていきました。そんな中、担当の先生からは、目標を持つことの意義など、「リーダーシップ」の概念を色々と教えていただきました。

その経験から、2年生になったタ イミングで国際文理講究「英語で学ぶリーダーシップ」を思い切って受講。「リーダーシップ」の概念を学ぶかたわらで、「Language Cafe」のスペイン語カフェの企画・運営に携わるようになりました。

私がやっぴいの？

スペイン語カフェは2021年度からの新しいカフェ。実は、私がスペイン語カフェの開催を希望したのが始まりでした。

おもしろい、前向きに動く、幸せ：

リーダーシップが気づかせてくれたこと

高校までの「勉強」と違う！

1年次に履修した「英語で学ぶリーダーシップ」で、リーダーシップはみんなが発揮できるものだと思いました。その後、同じく1年次に履修していた体験学習「海の中道海浜公園をフィールドとした国際交流プロジェクト」で、リーダーシップ行動の一つである目的共有の難しさを痛感。授業の内容を反芻しながら自分に何ができるか考えていると、ふと「リーダーシップ行動は誰か一人じゃなくてみんなが発揮すればするほど場がよくなるものなんだ！」、まるで花がぼつと開くように、授業で学んだことが腑に落ちる瞬間に出逢いました。それは、高校までの勉強とは違う、自分が心から面白く感じられる「学び」との出逢いでした。

働きかけの連鎖と

目的共有

そして2年生に。学生委員、コ、

高校生の頃から、スペイン語が学びたかった私は、大学でスペイン語を学べないことに正直がっかりしていました。それでもスペイン語に触れたいと、スペイン料理屋のアルバイトを始めた1年生の終わり頃、Language Cafeのコーディネーターの方から、今後参加してみたいイベントを聞かれ、スペイン語カフェと答えました。すると、「カフェは誰でもいつでも自由に作れるから、発足させたかったら言ってみてね」との言葉。「え？そんなに簡単でいいの？私がやっぴいの？」と思いながらも、「それなら、やってみよう」と、スペイン語カフェを始めることを決めました。

“Leadership makes a difference.”

初回のカフェは少し不安だったのですが、想像よりも多くの人が集まり、「意外と需要があるんだ！」と感じました。活動する中で、メンバーから、「これまで一人でスペイ

ン語を学んでいたけれど、一緒に勉強する仲間ができてよかった」と言われた時のうれしさ。自分の行動が、他者によい影響を与えられる。「英語で学ぶリーダーシップ」の授業で学んだ「Leadership makes a difference」（リーダーシップは、影響を与える・違いを生み出す）※1つてこういうことなのか、と実感しました。「発足させたかったら言ってみてね」という言葉が私に影響を与えスペイン語カフェが始まり、そのカフェが他者に「一緒に勉強する仲間」がいる場所となって、影響を与えているのです。

メンバーが

やりたいことをできる場に

「英語で学ぶリーダーシップ」で学んだもうひとつの概念「Leadership is a relationship」（リーダーシップは関係性の中で発揮される）※2は、カフェ運営で大切にしてきたことです。参加者が何を求めて来ているのか、スペイン語や

松島 海咲さん

国際教養学科 新3年生
(2020年度入学生)

準正課活動

- ・学生意識調査部会 学生委員
- ・カタカタ
- ・JD-Mates

「自分がどうしたいか」を描いている

目的共有の重要性が身に沁み込んできた中、授業「地域共創論」で、「共創」はありたい姿を描くところから生まれると学びました。それまでは、目的を自分起点とすることに恐れがあり、遠慮がちであったと思います。でも、「自分がどうしたいか」をまず描き、それを他者にも一緒に描いてもらい目的が生まれてもよいと気づいたのです。自分と他者の「起点」を両方大切に、以前よりもずっと前向きに動けるようになりました。

これらの「学び」は自分で行動して初めて出逢えたものばかりだったので、「迷うならやってみる精神」をぜひおすすしめします。

リーダーシップが
幸せに生きるための土台に

カタカタを運営していく中で、一

宮崎 綾さん

国際教養学科 新3年生
(2020年度入学生)

準正課活動

- ・Language Cafeサポーター
[スペイン語カフェリーダー]

スペイン語圏の何に関心を持っていたかを聞きだして、それらを毎回のカフェの内容に反映させられるように工夫をしました。

2022年度は、スペイン語カフェの参加者による企画や運営ができた、とワクワクしています。まずは、今まで一緒に活動してきたメンバーに声をかけ、その人たちがやりたいことをやってみる機会を増やしていけるといいなと考えています。「私がやっぴいの？」から「私がやっぴい！」が拡がった状態を思い描いています。



学生意識調査部会 学生委員 とは

学生にとってよりよい大学とするための改善点を見出す「学生意識調査」。実施からフィードバックまで学生視点の提案を行います。

カタカタ とは

2020年度地域共創論のスピノフ企画として生まれ、社会課題を気軽に語れる場づくりの企画運営をしています。2021年度教育活動活性化提案事業。

JD-Mates とは

外国人留学生の生活・学修支援を行うパートナー制度で、国際的な行事にも積極的にかかわることができます。

Language Cafe サポーター とは

語学学習や文化の理解を目的とし、多くの語学カフェが毎週昼休みに開催されています。コーディネーターのサポートのもと、その企画から運営までを学生が担います。

※1・※2 「英語で学ぶリーダーシップ」の授業で使用したテキスト、Kouzes & Posner (2013) "The Student Leadership Challenge"より。

会ったらにつこり挨拶が

私色のリーダーシップ発揮につながった

堀江 加奈さん
国際教養学科 新3年生
(2020年度入学生)

準正課活動
・なでしこメイト／
寮教育部会 学生委員

得意なことも
自信もない：

私には、「この分野は私に任せ
て！」と言えるような得意なことや
自信が持てる技術がありません。私

の周りには、前に立ってハキハキと
自分の意見を言える人、誰も思いつ
かないような面白いアイデアが次々
思い浮かぶ人、コンピューターに強
くみんなの目を引く動画編集に長け
ている人など、それぞれの得意分野
を生かしてリーダーシップを発揮し
ている人たちがいます。寮教育部会
学生委員のなでしこメイトとして仕
事をするときも、自分の居場所を見
つけられずに「自分だけ全然みんな
の役に立っていない、何もできてな
い」と考え込むこともありました。

「企画作りの基礎」で学んだ
「メディアカ」

そんな、自分に全くリーダーとし
ての素質がないと感じていた中、国
際文理学科「企画作りの基礎」と

いう授業を履修することに。なでし
こメイトとして寮活動を企画するこ
きに、企画を作るうえで重要な基礎
知識や考え方を身につけたいと思っ
たからです。

この「企画作りの基礎」で学び、
意識するようになったのが「メディ
アカ」です。同じ情報でも、自分と
関わりが浅い人から聞くのと、自分
が信頼している関わりの深い人から
聞くのでは信じやすさが変わると
いうもの。「誰が」発信するのかで
受け手への届き方が違うと学びまし
た。受け手つまり寮生にとって、な
でしこメイトや「堀江加奈」とは：？
を考え始めました。

なでしこメイトの4人以外は全員
1年生か留学生という状況の中、寮
活動「ナデシコ・ナイト」を企画運
営することが私たちなでしこメイト
に求められていました。学年が違え
ば交流の機会も少なく、自然と知り
合える機会もなかなかありません。
このままでは、ナデシコ・ナイトは
「よく知らない4人組がやっている、

参加しないといけない活動」になっ
てしまい、本来の寮教育の目的であ
る福岡女子大基礎力の向上に向けた
積極的な参加が難しくなってしまう
と感じました。

そこで、ひとつこれだけは1年間
続けようと決めたことがあります。
それは、「寮生と会ったらにつこり
挨拶をすること」です。挨拶をする
ことで急に何かが変わるわけではな
いと思います。しかし日々の挨拶に
よって、なでしこメイトは気軽に声
を掛けられる存在であり、身近な存
在であると感じてもらうことができ
る。なでしこメイトの「メディアカ」
が上があれば、「この人たちの企画す
るナデシコ・ナイト、楽しいかも！」
「寮生活の悩みも相談しやすそう！」
という気持ちにつながるのではない
かと考えたのです。

自分なりにできることは
小さくてもいい

そんな小さな毎日の決め事から、
挨拶を返してくれる寮生が増え、お



なでしこメイト／寮教育部会 学生委員 とは

福岡女子大学の教育寮「なでしこ寮」の寮生（1年生）の支援サポートを行う、公募で
選ばれた2年生です。入寮支援・入寮オリエンテーション、毎週月曜日の寮活動の企画・
運営、月1回の寮教育部会への出席、学生委員ミーティング参加などの活動があります。

点をつなげて発揮する

「自分は何を差し出せるか」

憧れていた図書館で

文化祭や体育祭でみんなを取りま
とめるのがリーダー。高校時代、そ
んな同級生の仲間を眩しく感じなが
ら、「自分には務められない」と決
めていました。そんな時、福女
大の「私のリーダーシップ」動画を
見ました。先輩たちが、自分自身の
リーダーシップの発揮についていき
いきと語る姿。いろんなリーダー
シップがあつていい、自分が発揮で
きるリーダーシップを探してみた
い、と思いました。

そして福女大に入學。学生委員募
集を眺めていた時、高校時代から憧
れていた福女大図書館に学生委員枠
があることを知り、応募することに。
小学校、中学校、高校の図書館とは
別世界なデザイン、美術品もある空
間を、作りだしていきたい、とい
う想いからでした。ただし、図書館
部門の学生委員は私ひとり。期待も
不安も抱えながらのスタートでし
た。

チーム、リーダーシップ、
フォロワーシップ

もうひとつ私が飛び込んでみたの
は、体験学習スリランカプログラム。
こちらは授業です。オンライン説明
会に集った他の1年生たちの姿を見
て、「この人たちと」緒なら自分も
成長できそう」が履修動機でした。
プログラムの私以外の5人のメン
バーはそれぞれに活躍をしていて、
私はチームに貢献できていないとも
感じることも。「自分には強みはな
いのかな」と悩む時もありました。
しかし、諦めず、時にメンバーとぶ
つかりながら心の内を伝え合うこ
とで、チームの中で自分が発揮でき
る強み、「場をなごませること」を自
覚できるようになりました。

さらに「チームで」を実感したの
が、図書館ラーニングコンソーズのイ
ベント企画でした。私自身の食への
興味から、図書館に資料を寄贈して
くださっている料理家の村上祥子先
生を迎えたイベントを企画・運営し

ました。図書館部門の学生委員は私
ひとりなので、食・健康学科1年か
らメンバーを募ったところ、2人が
手を挙げてくれました。準備を進め
ていく中で、役割分担や、意見の確
認、笑顔で作業することなど、スリ
ランカチームメンバーの姿を見て
「いいな」と思っていた行動をとる
ようにしました。

イベント準備をする私たち3人
に、図書館の職員さんや学科の先生
が、「がんばってるね」と手続きや
機材の手配といったサポートをして
くださいました。その時、学生委員
の全体ミーティングで学んだ、「『や
りたい』を応援する」というフォロ
ワーとしてのリーダーシップ行動
（フォロワーシップ）が、沁み込む
ように理解でき、職員さんも先生も
「チーム」なのだと思ったのです。

「自分」を発揮できる
管理栄養士

スリランカプログラムで気づいた
ことを、学生委員のイベントで意識



図書館部門 学生委員 とは

様々な企画・立案などを通じ、図書館運営に主体的にかかわることが可能です。



福島さんが見ていた「私のリーダーシップ」動画はこちらから。
ディレクションしたのは国際文理学部1期生であり、
長崎のベンチャー企業に勤務するOG。

準正課活動を 知ろう

5つの"My Leadership" Journeysに語られた、体験を通じた気づき、学び、成長。

福岡女子大学では、体験的に学ぶことを大切にしています。

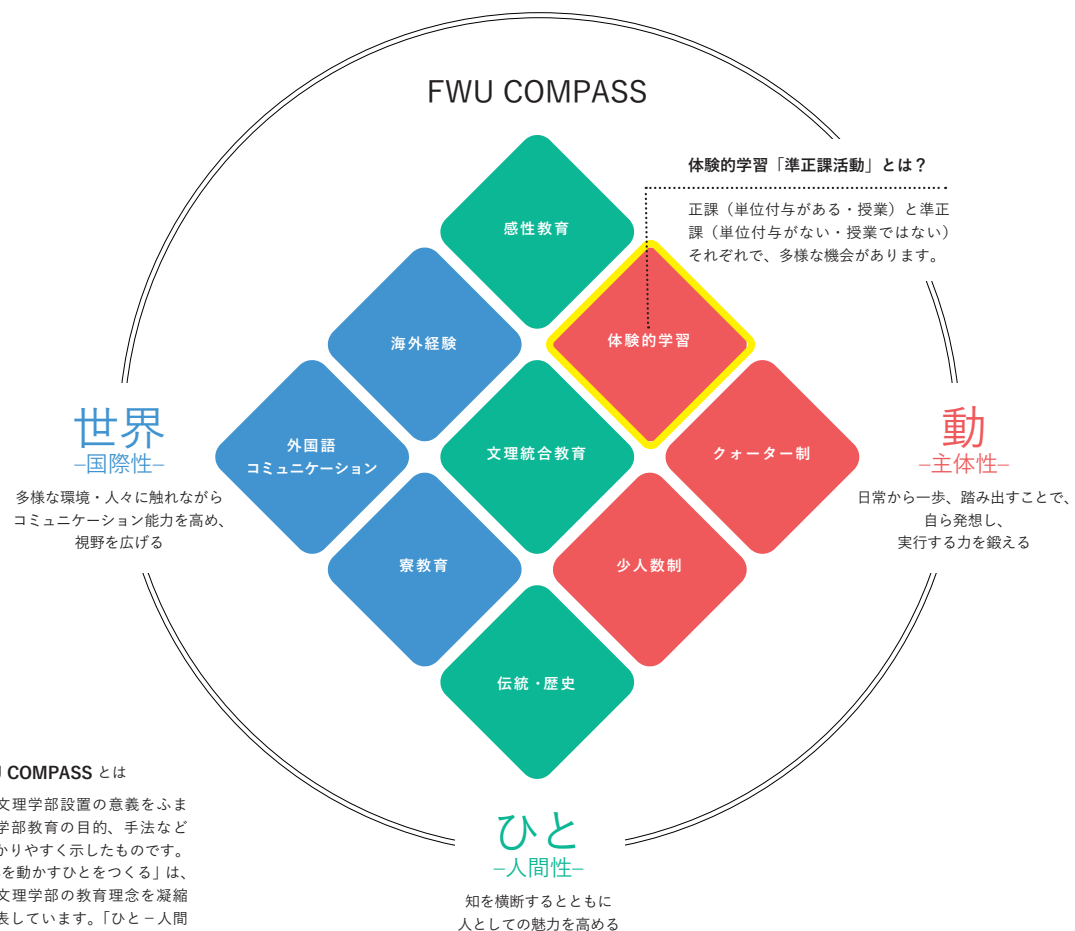
大学の基本理念「次代の女性リーダーを育成」を導く羅針盤・FWU COMPASS。

学生たちは、FWU COMPASS内に示された9つの特色ある学びを通じて、成長していきます。

その特色のある学びのひとつに位置付けられた「体験的学習」では、

実体験を通じて、自分・他者・社会を見つめ「こんな可能性もある！」を描く試みを重ねます。

「自身のリーダーシップに気づき、育む」も、そんな学びのひとつです。



FWU COMPASSとは

国際文理学部設置の意義をふまえ、学部教育の目的、手法などをわかりやすく示したものです。「世界を動かすひとをつくる」は、国際文理学部の教育理念を凝縮して表しています。「ひとー人間性ー」を「世界ー国際性ー」、「動ー主体性ー」が支え、教育の中心には「文理統合教育」の理念・手法があります。

世界を動かすひとをつくる。

自分自身の「development」

何か新しいことをやりたい！入学したての私は、体験学習「スリランカ・Exploring "Development"」プログラムに飛び込んでみました。初めは、「development」とは発展途上国のインフラ整備や貧しい人々を救うという漠然としたイメージを持っていました。しかし、学んでいくうちに「development」とは、「個人」「つまり自分自身の成長・発展でもあること、そして、受験勉強とは違って、大学で学ぶのは「自分をぐんぐん成長させる」ことを感じるように。決まった正解がない、答えは自分でつくる。だからこそ、何度も何度もコケて悔しい思いをします。悔しさは気づきとなり、「じゃあ、どうしよう」と向かえるようになりました。

自分が新しいことをやりたい！入学したての私は、体験学習「スリランカ・Exploring "Development"」プログラムに飛び込んでみました。初めは、「development」とは発展途上国のインフラ整備や貧しい人々を救うという漠然としたイメージを持っていました。しかし、学んでいくうちに「development」とは、「個人」「つまり自分自身の成長・発展でもあること、そして、受験勉強とは違って、大学で学ぶのは「自分をぐんぐん成長させる」ことを感じるように。決まった正解がない、答えは自分でつくる。だからこそ、何度も何度もコケて悔しい思いをします。悔しさは気づきとなり、「じゃあ、どうしよう」と向かえるようになりました。

オリエンテーション委員会に学びをつなげる

約50名のオリエンテーション委員をまとめるという初めての体験に、スリランカプログラムでの学びや経験を生かしながら臨んでいます。委員どうしの関係づくりのために交流の場を設ける、常に情報共有をする、委員長としての責任感から私だけが突っ走るのではなく、みんなの意見も聞いてみる：プログラムの体験を通して気づいたことが新入生オリエンテーション準備に生きています。体験から学んだことが、新たな体験へとつながり、そこでまた気づけて学べる、自分を成長させてくれる。それにワクワクしています。

カタカタと政治学のコラボで「やってみる」

2年次では、カタカタ運営にも飛び込みました。2021年10月に開催したカタカタ第7回「変えよう！なんとなくの投票」に参加してくださった政治学の先生から、「政治学とカタカタ、コラボしてみない？」とのうれしい提案が。80名の履修生が対話を通して学ぶ場をつくるものです。大勢の前で話すなんてできるか、でも、コケてもいいからやってみよう、と思いました。スリランカ

村山 亜美さん

国際教養学科 新3年生
(2020年度入学生)

準正課活動

・福岡女子大学 学生自治会
[オリエンテーション委員会委員長]
・カタカタ
・JD-Mates



福岡女子大学 学生自治会 オリエンテーション委員会とは

自分たちの大学をもっとよくしたい！という想いを形にしていけるための自治会組織のひとつ。新入生向けの学生主体オリエンテーションの企画・運営をしています。

◎九産大、福工大の学生と共に活動
東部地域大学連携 学生活動

◎福女大の地域連携事業の運営サポート
地域連携センター 学生委員

◎地域の小学生や住民のみなさんの活動をサポート
香住丘校区での活動

◎納涼祭やイルミネーション点灯式で地域交流
学生地域共催イベント

◎自分や社会課題について語れる場づくり
カタカタ

◎食と健康の大切さを伝える設立18年の食育サークル
しょくぼねっと
(福岡女子大学食育ボランティア学生ネットワーク)

◎高校生と交流しながら運営もサポート
高校生のためのイングリッシュ・キャンプ

◎2年生として1年生の寮生活をサポート
なでしこメイト/
寮教育部会 学生委員

◎チームを組んで多様な活動を企画・運営
なでしこ寮 有志活動

◎後輩の就職活動を応援する
内定者座談会

◎学生意識調査を学生の視点からサポート
学生意識調査部会 学生委員

◎福女大の100年間と今を知ってもらおう
記念誌編集部 学生委員

◎福女大美術館を盛り上げる
美術館部門 学生委員

◎大学をもっとよくするためのよりどころ
福岡女子大学 学生自治会

◎全200名が在籍し大学の魅力を発信
広報サポーター

◎外国人留学生のパートナーとして伴走
JD-Mates

◎図書館をもっと身近に楽しく
図書館部門 学生委員

◎2023年の周年企画を盛り上げる
100周年記念事業企画・広報部会 学生委員

◎ランチタイムに言語学習や文化理解を
Language Cafe サポーター

◎福岡都市圏14大学の学生と地域の課題解決
福岡未来創造プラットフォーム 学生交流プロジェクト



かかわることで、 自分をつくる。 福女大をつくる。

寮や図書館、美術館でのさまざまな取組の企画・運営やサポート。
語り合ったり、異文化に触れたりする機会の提供。
高校生向けの広報活動。地域や他大学とのコラボ...

身近な「社会」にかかわることで、
自分色のリーダーシップが見えてきます。
そして、そんなかわりが、福女大をつくりだします。

社会って、どこか遠くのことじゃない。
多様な準正課活動を通じて、
自分を、自分色のリーダーシップを、
発揮してみませんか。



「私たちの『今』と『リアル』」...
学生が紡ぐ福女大経験。
公式ブログ「FWU Stories」はこちらから。

